

- ☒ 話すこと ☐ 書くこと ☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実 ☒ 授業での活用 ☒ 家庭学習での活用
☒ パフォーマンステストでの活用 ☐ 課外活動での活用

実践の
ポイント

家庭学習と授業の連動

実証概要

<校数> 7校(中学校:5校、高等学校:2校) <人数> 1,024名(中学校:384名、高等学校:640名)
 <学年> 中学校:第2学年 高等学校:第2学年 <アプリ等> LANGX Speaking(株式会社エキュメノポリス)

<AI機能について> LANGX Speakingは、学習者の発話に基づいた英語力を、表情等の非言語的な情報も含めて判断し、学習者のレベルに応じて会話を継続できるよう、話題や応答を調整することができる。また、学習者の発話に関する音声、映像、テキストデータを組み合わせ、文法の組み合わせや発音等を総合的に判断し、CEFRで診断することができる。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●授業中及び家庭学習としての活用

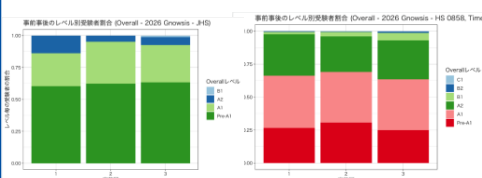
中学校及び高等学校の一人一台端末を活用し、家庭学習を中心に実践を行った。今年度より中学校での実証研究を開始したため、中学生がよりスムーズに運用できるよう、事前のオリエンテーションの実施や、家庭学習時の注意点等を示すことで、各家庭でトラブルなく使用できるよう各学年の実態に応じて配慮した。生徒は自分のペースでLANGX Speakingに取り組むとともに、授業では即興で話す力を高めるための練習等に活用した。またAIとの会話を行うことで心理的安全性が確保され、間違いを恐れることなく、安心して家庭学習等に取り組むことができた。あくまでもAIを使うこと自体が目的とならないよう、「対人でのコミュニケーション」という最終目標を意識させながら実証研究を進めた。

●アセスメントの結果を踏まえた授業改善

LANGX Speakingは、普段の会話練習と生徒の英語力を図るアセスメント機能を持つ。教員はアセスメントの結果を踏まえ、生徒の課題を改善する授業実践に努めることで授業改善につなげていった。生徒は自身の課題がより明確になったことで、家庭学習での課題を授業中に改善するサイクルを確立することができた。

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

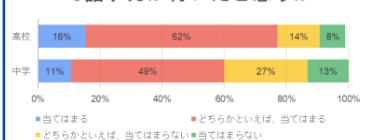
①児童生徒の英語力の変化



特に上位層で英語力の向上が見られたが学校間でばらつきがあった。

②児童生徒の関心・意欲の変化

AIを使った英語学習で、英語で話す力が付いたと思うか



多くの生徒は間違いを恐れずに取り組むことができ、効果的だと感じていた。

③教師の指導の変化

アセスメントの結果から、AIと教師の役割を意識した授業改善が図られた。またアンケート結果より約8割の教師がAIを活用することで、個別学習中に気になる生徒への個別指導に注力できたことが分かる。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実におけるAIの活用について、肯定的な意見も得られた。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

AI英語活用リーダー研修会の活用及びオンライン研修会の実施

事務局が主催する勉強会を踏まえながら、県教育委員会のAI英語活用リーダーが中心となって学習会をオンラインにて実施することで、リーダーの育成や各実証研究校や各地区での普及を目指した。学習会には実証研究校の職員及び市町村教育委員会の担当者や、各教育事務所の外国語教育担当指導主事等が参加した。学習会では各実証研究校の取組やAI技術の活用について知見を高めたり、指導方法について検討していくなどした。他校種の取組を共有することができたので、自校の取組に取り入れることでAI活用の幅を広げていった。今後、AI活用の実践について、どのように県内に広く周知していくかが課題である。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

多くの生徒は大変意欲的に取り組み、英語力の向上も見られた。AIが話し相手であることから、対人に比べ気軽に取り組める点や、AIが適切な返答をしてくれることにより、「自分の話す英語が通じている」という実感を得る事ができる点、幅広い語彙や表現を用いた会話の練習ができる点などがメリットとして挙げられる。一方、中には変化が見られない生徒や苦手意識を感じる生徒も見られた。生徒に対する更に個別最適化された支援やフィードバックの工夫、個々の生徒に対応しやすい担当教員へのサポートなどが求められる。家庭学習が中心であることによる、ハード面での不備により、学習が進まなくなることがあったこと等も含め、今後の課題である。